

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUBS分科会 更新日 2011/12/8
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際生物科学連合
(欧文) International Union of Biological Sciences
(略称) IUBS

日本学術会議加入年(西暦) 1950 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) The IUBS Executive Committee

	会長	会長代理/直前会長	副会長	財務/庶務
(氏名)	Giorgio Bernardi	John Buckeridge	John Jungck, Zhibin Zhang	Jean-Marc Jallon (Secretary General), Annelies Pierrot- Bults (Treasurer)
(国)	イタリア	オーストラリア	アメリカ 中国	フランス オランダ

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

3年に一度の総会前に一定の推薦期間を設け、加盟団体による任意推薦による候補者リストを作成。これに基づき直前会長を委員長とする選定委員会が原案を作成し、これを参考に総会時に投票権のある団体による投票で決定。

加入国・地域の数 44 (他に80国際学会)

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、ロシア、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、南アフリカ

国際学術団体のホームページURL <http://www.iubs.org/>

国際学術団体の年間運営経費 333,293ユーロ(2004-2006平均)

日本の分担予定額[事務局で記入] 5,001千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	Conference on Effects of Genome Structure and Sequence on the Generation of Variation and Evolution	Rutgers University, New Jersey	80	0	無
2010	Fourth International Conference on Plants & Environmental Pollution	Luscknow, India	150	0	無
2010	Symposium on Biological Consequences of Global Change	Kuming, China	80	2	無
2010	Structural and Functional Diversity of Eukaryotic Genome programme	Brno, Czech Republic	50	2	無
2010	Global Change and World's Mountains	Perth, Scotland, UK	100	2	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	理事会 (Executive Committee Meeting)	Rome, Italy	14	武田洋幸	0
2011	執行委員会	IUBS 事務局, Orsay	4	なし	0
2010	臨時理事会 (Executive Committee Meeting)	Kuming Hotel, China	5	武田洋幸	1
2010	臨時執行委員会 (Officers' Meeting)	IUBS 事務局, Orsay	4	なし	0
2010	臨時執行委員会 (Officers' Meeting)	UNESCO, Paris	4	なし	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- 1 定期刊行物(年1回) Biology International(2004年の46号からonline版のみ)
- 2 不定期刊行物 主な出版物名 Rebirth of Science in Africa: A Shared Vision for Life and Environmental Sciencesほか

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>有(具体的内容) 持続可能性のある発展とグローバリゼーションをキーワードとして、以下の7つの事業を行っている。BCGC (Biological Consequences of Global Change), BioCode (nomenclature across all organism groups), Biology Education, BioEthics, iCCB (Integrated Climate Change Biology), Integrative Genomics, Biology and Traditional Knowledge</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>有(具体的内容) この20年間にDecade of Tropics, Biocomplexity, Bioindicators, Reproductive Biology of Aquaculture, Diversitas, Towards An Integrative Biology等の国際プログラムを次々と提唱し、実践してきた。特にDiversitasは、UNESCO, ICUS等を巻き込んだ国際プログラムとして、生物多様性の研究、教育、ならびに保存にむけて大きな成果を挙げつつある。また、2009年をDarwin 200として位置づけることを提案した。2010年の生物多様性年に対応する討議が行われた。2011年9月に理事会を開催し、ICUSなどの上位団体への委員の参加と活動報告を行った。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>有(具体的内容) Diversitasの創設機関としてDiversitasの活動に一貫して参加し、UNESCO等と共同してその拡充と進展に寄与してきた。Towards An Integrative Biology (TAIB) プログラムに沿った国際シンポジウム・ワークショップを、この10年間に世界各地で14回主催した。2009年にはDarwin 200プログラムとして、進化を中心にすえた色々なテーマでInternational Symposiumを8回実施した。2010年では2010年の生物多様性年に対応するシンポジウムと小集会在7回実施された。2011年は主にゲノムと多様性の集会を実施した。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>有(具体的内容) 生物多様性の保全、生物教育の向上、地域における伝統的自然利用に関する研究、命名規約の整備と改定にそれぞれ取り組んだ。地球環境の変化が生物界に及ぼす影響の調査と対応策の検討を行うために、新国際プロジェクトBiological Consequence of Global Warmingが立ち上がり、活発に展開中である。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>有(具体的内容) 発展途上国における生物教育の改善と普及に向けて、毎年、BioEdプログラムを進めた。また、Diversitas等の国際プログラムを通じて、発展途上国における、生物学の研究・教育の進展拡充に取り組んできた。また、2010年のIUBSプログラムに参加した12名の若手研究者へ、IUBS Young scientists grantによる支援が行われた。2011年もこの支援は継続している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>Integrative Biology(統合生物学)、Systems Biology (システム生物学)、Organismal Biology(個体生物学)など、より高次の生物学の展開。ならびに、地球環境の急速な変化がもたらす生物界への影響の調査、解析と対応が重要となっている。</p>
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
理事	武田洋幸	2009	2011
前会長	星 元紀	2007	2009
会長	星 元紀	2004	2007
副会長	星 元紀	2000	2004
理事	星 元紀	1997	2000

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUBS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

国内の生物科学学会連合との連携を強化した。具体的には、2011年1月24日の生物科学学会連合の定例会議で、IUBS分科会委員長となった武田(IUBS理事)がIUBSの活動の紹介と連合からの協力依頼を行い、今後の定例会議でのオブザーバー参加が認められた。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本動物学会	2183	http://www.zoology.or.jp/
日本植物学会	2087	http://bsj.or.jp/
日本発生生物学会	1430	http://www.jsdb.jp/
日本比較生理生化学会	507	http://jscp.org/
日本分類学会連合	16200	http://wwwsoc.nii.ac.jp/ujssb/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IUBS分科会
基礎生物学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
武田 洋幸	浅島 誠	西田治文	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	3	1

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

基礎生物学及び、応用(統合)生物学分野における、国際的動向と問題点を把握し、国内における関連する活動を主導的に啓蒙するとともに、具体的な活動を推進する。また、特にアジア地域における連携と支援を深め、日本の国際的な立場を強化する。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2010/12/1	第3回委員会を開き、IUBSの活動状況の報告を行うと共に、2012年に中国で開催される第31回IUBS総会に向けて、日本における活動を如何に発展させるかなどを検討した。この委員会で、星連携会員から武田特任連携会員への委員長の交代が承認された。また今後は生物科学学会連合との連携強化が重要であることが確認された。
2009/11/12	第2回委員会。第30回IUBS総会の報告。今後の活動方針を検討し、SCJ内の関連委員会、生物科学学会連合との連携の強化、IUBSのプロジェクト中でも生命倫理および生物学教育に関しては日本の対応が遅れているので、その対策を講ずることなどを決定した。また、来年度に開催が予定されているCBD COP10に呼応したIUBSの活動支援体制の構築をはかること、および31回総会に向けて、新プログラムの検討および既存プログラムに参加できる人材の発掘を行うこととした。
2009/4/28	第1回委員会。役員決定。21期活動方針。10月に開催される第30回総会への派遣代表及び役員推薦候補の選定。IUBS理事候補推薦予定者の特任連携会員推薦について審議。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- 1 学術会議発信の各種媒体による広報
- 2 学術会議IUBS分科会委員を通じた関連学協会・学会連合への連絡
- 3 IUBS本部のURLを通じた広報

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- 1 IUBS分科会委員所属の学協会・学会連合を中心に、必要に応じた協力や意見を求める。そのひとつとして、IUBSのプロジェクト中でも日本の対応が特に遅れている生命倫理および生物学教育に関しての協力を要請する。
- 2 31IUBS回総会に向けての新プログラムの検討および既存プログラムに参加できる人材の発掘に関し、関連学協会に協力を要請する。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

活動の活性化にむけてさらに努力する。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

3年に一度の総会を節目として活動計画が立てられるため、委員会の活動が低調になりがちであるが、生物科学全般の世界的動向を巨視的に理解してゆくためには不可欠な組織である。IUBSの包括的な存在下で加盟国際団体の活動は活性化しており、学術会議においては、第二部・第三部を中心とした生物科学関連分科会の活動に反映されている。今期は2012年の中国への総会に向けて、IUBS分科会としての活動をさらに活性化する必要がある。